

座長：玉井 杏奈(台東区立台東病院)

---

この島が大好きだから、この島で生まれる赤ちゃんから看取りまでかかわりたい

加藤 一郎

隠岐広域連合立隠岐病院 副院長 診療部長 地域連携部長

---

「産婦人科医にならなかつたら離婚するわよ」との助産師である妻の冗談か本気か分からない一言で私の産婦人科研修が始まりました。もともと自治医科大学を卒業して初期研修後に隠岐の島の病院に赴任した当初は、救急も出来るプライマリ・ケア医を目指していました。その後同じ島の診療所勤務も経験してその地域全体を診るという醍醐味も味わり、今後は救急をしっかり勉強したいと考えていた矢先、島の産婦人科医がなくなり全ての妊婦さんが海を渡って本土での分娩を余儀なくされたのです。

そんな折に妻から発せられたのが前述の言葉ですが、産婦人科を勉強しようと思った理由はもう一つありました。そもそも医学部を目指した理由が、将来世界の恵まれない地域で役に立ちたいということだったので、医師になってからカンボジアで少しNGOの勉強をする機会がありました。その際、現地の祈禱師のような産婆さんが赤ちゃんを取り上げた後におまじない(?)で会陰裂傷に泥を塗るという風習を目の当たりにし、産科の知識がなかった私は何も出来ず悔しい思いをしました。また、その後JICAの国際緊急援助隊の合宿訓練の際に、元国連難民高等弁務官でJICA理事長の緒方貞子氏より「日本で使えない医師は、世界どこへ行っても使えない」と言われたことから、産婦人科医となって島に帰り、困っている妊婦さんの役に立とうと決心したのです。

島に一人産婦人科医として帰ってからは、ベテランの助産師らと協働してローリスクの産婦のみという制限はあったものの分娩は継続することが出来ました。また、他の島の産婦人科医や助産師さんとネットワークを構築したり、シミュレーション教育をライフワークにしていることから全国の救急・周産期に関わる方々と一緒になって活動出来ることは、何事にも代えがたい私の財産です。現在は当院の総合診療科統括部長として、この島が好きだから、女性の産む力を信じてこの島で生まれる赤ちゃんから高齢者の安らかな看取りまで関わっていきたいと思って仕事をしています。

---

【略歴】

1998年3月 自治医科大学医学部卒業  
1998年4月 島根県立中央病院で初期研修  
2000年4月 隠岐病院内科勤務  
2002年4月 都万村診療所勤務  
2005年4月 島根県立中央病院で産婦人科研修  
2007年4月 隠岐病院産婦人科勤務

座長：玉井 杏奈(台東区立台東病院)

---

## 地域ときどき〇〇

望月 崇紘

君津市国保小櫃診療所 管理者兼所長

---

地域医療のイメージってどうでしょう。先端医学からの後退、華々しい医療界から脱落、プライベートのない自己犠牲…。この抄録を目にする医学生のみなさんはきっと地域医療に興味あるものの、これら不安を少なからず抱えているのではないのでしょうか。私は、訪問診療でおじいちゃん・おばあちゃんとお茶飲みながら世間話、みたいにどっぷり地域医療しているとみせかけて、翌週は世界の学会で研究発表みたいな働き方をしています。また、ゴルフ、畑、BBQ と田舎ライフを満喫しつつ、アクアラインを渡ってすぐ都内にアクセスし、友人と遊んだり行列ラーメン屋に行ったりと、田舎も都会も楽しんでいます。医学生のみなさんはこれまで敷かれたレールを選んで、あとはそれに乗かって走ってきたという方が多いと思います。しかし、これからの医師人生いろんな生き方があってレールなんてありません。地域医療を選択した先に、こんな楽しみ方もあるんだという一つとして、私の「地域ときどき〇〇」の医師ライフをご紹介します。

---

### 【略歴】

平成 18 年 3 月 千葉大学医学部卒

平成 18 年 4 月 牛久愛和総合病院 初期研修医

平成 20 年 4 月 地域医療のススメ：東京北社会保険病院 総合診療科

平成 20 年 12 月 町立山北診療所 管理者兼所長

平成 24 年 4 月 東京北医療センター 救急科

平成 29 年 9 月 OHSU DFM 研究フェロー

令和元年 9 月 奈良市立都祁診療所 管理者兼所長

令和 2 年 4 月 君津市国保小櫃診療所 管理者兼所長